

## 細部まで追求した軸受製品を 世界に発信

COC(株) 代表取締役  
小林 英一氏 (63歳) に聞く



**Q** 会社の概要を教えてください

当社は堺市西区に本社を置く軸受ユニットメーカーです。

私は35年ほど軸受ユニットメーカーでノウハウを培った後、独自の軸受ユニットを作りたいという考えから、2018年に当社を設立しました。同年、自動調心ころ軸受ユニット「SRBユニット」の開発を開始しました。開発品は軸受をハウジングに組み込んだユニット品として設計し、2019年には製品化を実現しました。

さらに2021年に、食品機械向けのステンレス製軸受ユニット「サニライン」シリーズを開発しました。2021年6月から日本でも完全義務化になったHACCP食品衛生管理法にも対応した製品として、食品製造関連の展示会に出展するなど、同品の提案を行っています。

また、昨年10月に米国で共同出資者とともに「COC USA」を立ち上げ、本年からは米国市場にも当社製品を展開しています。米国以外にも、世界各国で代理店を通じて販売網を拡げ、例えば南アフリカやオーストラリアなどで鉱山設備に採用が拡大しています。

**Q** 現在の注力事業は？

主要製品の自動調心ころ軸受ユニッ

トとステンレス製軸受ユニットを両輪として事業展開を行っています。

まず自動調心ころ軸受ユニットは、従来品と互換性を持たせました。従来のプランマープロックの組立てや取付けは技術を要するため、熟練工が行っていましたが、熟練工の減少や取付け工数削減などの市場ニーズに対応し、自動調心ころ軸受ユニットを開発しました。プランマープロックは、軸を固定するためのスリーブの締付けにロックナットが用いられていますが、締付け不足による軸のスリップや過度な締付けによって軸受寿命を短くしてしまう恐れがありました。そこで、開発品には六角レンチだけで容易に締付けが可能な特許取得済みの「クロスロック」を採用し、取付け・取外しの不具合の低減を実現しました。

一方、ステンレス製軸受ユニットは防塵・防水規格であるIP69K認証を取得しており、高圧洗浄にも耐えます。NSF H1グレードのグリースを封入してメンテナンスフリーを実現しました。また、食品製造などでは、バクテリアの繁殖の温床となる凹凸や傷の発生を抑制するため、平坦な表面デザインと、傷を付ける恐れのないスリットの変形を利用した軸の締結システム「オクロック」を開発しました。このシリーズは食品製造や製薬などの分野に

提案していきます。

**Q** 今後の取組みを教えてください

ユニット化した当社の製品は、従来のプランマープロックと比べ初期投資額が大きいものの、部品の組立てや給脂、交換の際の取外しなど、メンテナンス費用は大幅に低減できます。そのため、メンテナンス費用が高い米国などへの提案を強化する予定です。

まだまだ人件費が安いアジアでは拡販が難しい状況ですが、残念ながら日本もその部類に入るため今後はより安全性を訴えてトータルコストでメリットを理解してもらえるように訴えて行きたいと思っています。

「細部まで気を遣うことこそが製品を作るということだ」という、見えない部分まで追求するものづくりの姿勢で、ユーザーにとって使いやすい製品設計を追求するほか、包装にはビニールを使わないなどの環境に配慮したもののづくりを進めています。

当社の社名COCは「クロス・オーシャン・カンパニー」の略です。また、ロゴマークは長寿命で機能的な製品を島国の日本から海を渡って世界中に届けることをイメージし、「ウミガメ」をデザインしています。まずは展示会を活用し、米国を中心に、世界各国に当社の認知度を向上させていきます。